

令和6年度学校自己評価システムシート (県立ふじみ野高等学校)

目指す学校像	これからの時代をたくましく生きる知・徳・体を育むとともに、仲間とともに学習にスポーツ・文化活動に全力でチャレンジし、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	---

重点目標	1 ICTの効果的な活用による授業改善を通して主体的に学習に取り組む態度や探究心を育成し、進路実現に繋げる。 2 自律的規範意識と他者を尊重する精神の涵養を通して豊かな心と健やかな体の育成を図る。 3 家庭、地域及び大学等の連携を充実させ、社会に開かれた教育課程の実現を図る。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 7 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 2 7 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・家庭学習にICT端末やアプリを活用している生徒が半数以下に止まっている。 ・進路実現に向けて生徒一人ひとりの希望に応じた進路指導を体系的に実施している。 【課題】 ・主体的に学習に取り組む態度と探究心の育成が課題である。 ・ICT端末を利活用した授業実践及び探究的な学びに向けた調査研究を進めていく必要がある。	①ICTを効果的に利活用した授業実践を進めていく ②生徒一人ひとりの在り方生き方と関連付けた学びを推進する	①各教科でICTの効果的な利活用に向けて研究し、授業公開等を実施していく。 ①教務部及びICT委員会を中心に先進校視察等を通じて調査研究を進める。 ②進路指導部及び教務部が中心となり、探究的な学びにより進路実現を図っていく。 ②ガイダンス機能の更なる充実を図りながらキャリア教育を推進する	①授業公開及び研究協議等の実施状況。 ①先進校視察及び調査研究の実施状況。 ①主体的、対話的で深い学びを実感できた生徒の割合。 ②進路実現と探究的な学びを関連付けられた生徒の割合。 ②進路指導に対する生徒の満足度の状況。	①年次研修者の授業公開を中心に主体的な学びの授業研究に取り組むとともに先進校視察による啓発と情報収集を行うことができた。 主体的、対話的で深い学びを実感できた生徒の割合は73%であった。 ②進路実現に向けて探求的な学びが実践できた割合は70.4%であった。 12月末現在での進路決定者は155名、大学64名(指定校推薦31、公募5、総合型28)短大6名(指定校4、総合型2)専門学校等55名(指定校21、公募7、総合型27)公務員10名、一般就職26名 保護者アンケートの進路希望に応じたきめ細やかな指導満足度は74.3%	B	・引き続き主体的に学習に取り組む態度と探求心の育成を図るとともに家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携に取り組む必要がある。 ・個に応じた進路指導推進のため、第一志望への進路実現と探求活動をより深く行う支援体制を整備する必要がある。
2	【現状】 ・生徒指導部、各学年及び各部活動等が連携して基本的生活習慣の確立が図られている。 ・「地域に元気・感動・夢を発信する学校」として諸活動を展開している。 【課題】 ・交通事故ゼロに向けて交通安全指導を粘り強く継続していく必要がある。 ・内外から応援される部活動、生徒会活動であるために、より一層活動の充実を図っていくことが課題である。	①高い規範意識を持ち自他を尊重する社会性を育成する ②生徒それぞれの多様な状況に対応できる組織的な支援体制を強化する	①生徒指導部(生活係・生徒会係)を中心に、安心安全な学校生活や充実した学校行事に向けて指導支援を行う。 ①学級、各種委員会、部活動学校行事等を通じて生徒が活躍する場面を創出する。 ②各学年及び校内委員会を中心に情報共有の徹底を図る。 ②SC、SSW及び児童福祉担当機関と連携して多様な生徒の状況に丁寧に対応する。	①事故・苦情・指導対象者の状況。 ①学校行事の満足度の状況。 ①各種活動に主体的に取り組めた生徒の割合。 ②校内の情報共有の在り方に係る状況。 ②SC、SSW及び外部機関との連携の状況。	①交通マナー指導やモラル教育等で規範意識を啓発。昨年同時期比較での自転車事故-1件、指導件数-9件、指導対象者-17名となり苦情件数も少なく指導支援の成果が出ている。 学校行事の満足度は45.9%であった。 ②特別支援教育校内委員会を中心に支援が必要な生徒の情報共有や支援方法等の検討を行い、教職員が共通理解を持ちながらの指導体制が整備された。 各部署への情報共有を通し実態把握への理解と組織的な対応を行うことができた。 スクールカウンセラーの積極的な活用と外部NPO法人と連携した居場所づくりに取り組んだ。 体操競技部・水泳部においてインターハイ優勝を果たした。	A	・個に応じた指導を引き続き推進して個別最適な指導に取り組む。 ・中学校をはじめ部活動の在り方が変化中、文武両道による心身の成長と主体的に活動する力の育成に継続的に取り組む。 ・組織的な教育支援体制を継続し、スクールカウンセラーや外部支援団体等との連携を図りながら指導に取り組む。
3	【現状】 ・学校評議員会及び学校評価懇話会、生徒及び保護者アンケート等によるフィードバックを得ながら教育活動の改善に努めている。 ・大学や関係機関との連携、地域との交流に取り組んでいる。 【課題】 ・大学及び地域関係機関との連携強化を図りながら、探究的な学びを深めていくことが課題である。	①大学及び地元機関等との連携協働を進める ②各種広報媒体を活用して本校の教育活動を積極的に発信する	①高大連携プログラムを円滑に実施する。 ①地域との交流活動等に積極的に参加する。 ①学校評議員会や生徒及び保護者のフィードバックを教育活動の改善に繋げる。 ②HP、PTA広報誌及び地元自治体の広報誌等を利活用する。 ②生徒募集活動の工夫改善を進めていく。	①高大連携プログラムの実施状況。 ①地域との交流活動への参加状況。 ①フィードバックを生かした教育活動の改善状況。 ②HPの更新状況。 ②生徒募集活動の実施状況及び志願状況。	①文京学院大学での模擬授業とガイダンスや地元商店街の活性化プロジェクトへの参加、女子栄養大学によるSS科の栄養学講座を9回実施した。 生徒会や文化部を中心とした地元自治体への催し物への積極的な参加を行った。 ②学校ホームページやSNSを利用して部活動の活動状況や大会結果などの情報発信を行った。 進学フェア110名、学校説明会(12月まで)716名、部活動体験414名の参加であった。	B	・本校の特色や魅力を効果的に発信・閲覧できるツールの活用を進めるとともに求められている情報を分かりやすく発信する。 ・学校間連携と地元自治体との連携協働を継続し、本校の付加価値を高められる取組の検討を図る。

学校関係者評価	実施日 令和7年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・「何で学ぶのか」は今日的課題である。学んだことを社会に還元する喜びを持たせることが重要なのではないか。社会の課題を発見し、課題解決型の学び、プロジェクト設定をしていける生徒の育成が必要と考える。 ・考査前の復習勉強会、苦手意識のある授業の補習、自主室等の設置などが進むと良いのではないか。 ・タブレットを活用した授業をもっと推進して欲しい。 ・分からない生徒の立場に立った授業改善は引き続き取り組んで欲しい。 ・家庭学習は保護者の家庭内の子供との関わりによるところが大きいのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動さえやっていたら良いという感覚にならないようにして欲しい。 ・生徒指導案件が減少しているのは良い傾向である。引き続き取組を続けて欲しい。 ・生徒に対する指導が、今にそぐわないものとなっていないか、相談しやすい環境となっているか振り返りは大切である。 ・校則改善について生徒主体で考えさせて、先生方と協議することを学ばせてはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校との連携について関係性を見直す時期に来ているのではないか。「地域に1校」という特色を生かして、地元小学校・中学校も交えた「オールふじみ野」での教育を進めてはどうか。自治体もバックアップする意向を示している。 ・地域連携による一歩深い学びができていると感じる。 ・HPの頻繁な更新は引き続き取り組んで欲しい。部活動で頻繁に更新されていると応援したくなる。

